

都立杉並高等学校

【校長】 高橋 聡
【生徒数】 898名
【学級数】 23学級



【実態・目標】

- 身体の健康管理について意識はしているようが、食事や睡眠のとり方等、疾病予防についての対策は徹底できていない。
- 悩みやトラブルを抱え、急に精神の健康を崩してしまう生徒が見受けられる。
- 性教育についての正しい知識を習得できていない生徒が少なからずおり、不安や問題を抱えた際に、対処に悩むことが想定される。

目標

・生涯にわたって健康に過ごすことができるよう、自らの健康への意識を高め、健康管理できる資質を育成するとともに、性に対する知識を深め、健康維持のために適切な意思決定や行動選択ができるようにする。

【課題・改善】

- 特に性に関する意識は向上したが、それが持続しているかどうかを図る手だてが課題である。
- ⇒【今後の取組】
- 3年間における、「身体の健康」、「精神の健康」、「性教育」についての指導計画及び専門機関との連携を検討し実践していく。

【取組】

- 科目保健における、生涯の健康についての授業
「思春期と健康」の中で、自己の健康とその維持について、考えを深める機会を設定する。
- 教員の指導力を向上させるために研修会に参加
養護教諭が性教育指導セミナー全国大会に参加し、その成果を還元した。
- 産婦人科医を招へいした公開授業の実施
性に対する正しい知識を習得し、自己の健康維持に対する意識を向上させる。

【成果】

- 生徒の意識に関する成果
多くの生徒が、専門家による授業内容について、「分かりやすい」「効果的」「役に立つ」と回答した。
- 生徒の態度に関する成果
自分だけでなくパートナーの心身の健康についても意識し、気遣う姿勢の必要性を改めて認識した。
- その他（教員の授業改善など）
生徒が授業に真摯に取り組む態度から、このような機会を設定する重要性を改めて認識した。

【取組（詳細）】

○ 科目保健における、生涯の健康についての授業

2学年の1学期に、「思春期と健康」という単元の中で、性意識と性行動の選択、妊娠と出産、避妊法と人工中絶、結婚生活やライフステージにおける健康について学んだ。

知識については、ICT 機器を使用し、よりわかりやすく、また、知識の定着のためにTV映像なども取り入れながら理解を深めた。また、自らの健康や、その維持について考え、互いに考えを共有する機会を設定した。

○ 教員の指導力を向上させるために研修会に参加

- 日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会への参加
「多様性に寄り添う性教育」をテーマに行われ、教育現場における、性別違和等の多様性への対応の在り方や発達障害の生徒への理解と支援について学んだ。
- 分掌部会や教育相談委員会、校内研修会を開催して、研修成果を還元した。

○ 産婦人科医を招へいした公開授業の実施

【授業内容の説明】

- ・性の健康について学ぶ意義
- ・身体の性差、妊娠と避妊、性感染症
- ・性意識、性被害

【生徒の様子】

- ・専門家による性についての講話は初めて実施したが、真剣に話を聞いていた。(生徒の感想より)
- ・初めて知る内容が多かった。
- ・男女ともに正しい知識を身に付けて、相手を思いやるのが大事だと思った。
- ・恥ずかしがらずに学ぶことが大切だと思った。

【外部人材を活用した授業について】

専門的な知識と豊富な経験をもつ外部人材から講義を受けることで、生徒が、正しい知識に基づいて、自身の健康維持について意識向上を図ることができた。



産婦人科医を招へいした公開授業の様子